

目指しているのは小野路の活性化。  
里山交流館はその為のキーステーション

NPO法人 小野路街づくりの会



**NPO法人 小野路街づくりの会**  
理事長 山崎凱史  
TEL 070-6981-3966  
<https://www.facebook.com/satoyamakouryukan>

**小野路宿里山交流館**  
9時～17時 年末年始(12/29～1/3)休  
町田市小野路町888-1  
TEL 042-860-4835

多摩丘陵の閑静な原風景が今も残る町田市小野路町。東京で唯一、「ほんの里100選」に選ばれ、自然と歴史を併せ持つ美しい里山だ。鎌倉時代には幕府と武蔵国府である府中の中継地として、江戸時代には大山詣りの要所として栄え、6軒の旅籠があった。近藤勇や土方歳三らが小島為政氏の元へ出稽古に通ったことでも有名である。

員数は現在58名。農産部会と工芸品部会があり、主な活動は小野路宿里山交流館の運営だが、ここに至るまでには何年もの構想期間や会員たちの熱い思いがあった。

が凝らされている。併設されている土蔵では、有名な作家の作品展から地域住民の発表まで多彩な催しが開催され、文化活動のスペースとして利用されている。

**旅** 籠の一つ、旧角屋を改修して小野路宿里山交流館がオープンしたのは2年前の9月。土地と建物は町田市の所有だが、運営を任されているのが「NPO法人小野路街づくりの会」だ。同会は2002年に出来た市民団体「小野路宿通り街づくり協議会」の中の「角屋を考える会」が前身で、2013年8月に発足した。会

2013年のオープン以来、来館者は6万人を超えている。手頃な値段で食べられる地粉を使ったうどんのランチや、近隣農家の朝採れ野菜が人気だ。再生した建物は2階建ての寄棟造りで、太い梁と高い天井、白い漆喰の壁がノスタルジックな雰囲気を醸し出す。開催イベントも多岐にわたる、手打ちうどん作り、畑での収穫作業の他、菊堀り、茶摘み、流しうどん、里山歩き、寄席など、季節毎に趣向

会の理事長は小野路在住歴22年という山崎凱史さん。「ここは小野路のまちや農業の活性化、雇用の創出など、街全体の様々な環境整備を目的としたキーステーションなんです。会として地域の雇用の創出も実現でき、会員として協力してくれる農家の方々も増えてきました。ただ、目指しているものもずっと小野路町全体の永続的な活性化と、「小野路ブランド」の発信。今出来ていることはまだ目標のほんの一部です。休耕田の復活や里山の保全など、まだ手つかずの部分もあると語る。

江 戸時代初期から先祖代々、小野路に住んでいる新倉孝之さんも立ち上げ当初からのメンバーだ。退職してからの20年は町内会や街づくりに関わりっぱなしだと笑う。

「ここ宿通りはもともと『大山道』と言って、ごく一部を除いて何百年もの間、ずっと同じ人が住ん

でいるんです。板塀が沢山並んで風情があったのが、太平洋戦争のB29の空襲で殆ど消失してしまっただけで、それが景観づくりを促す市の補助によりかなり復活しました。現在、電線の地中化工事も進められ、だいぶ綺麗な景観になると期待する一方、車の抜け道になってしまっていて…。道路整備や近隣エリアの開発を受け通過車両が増し、住民の安全が脅かされていることも事実だ。景観づくりや街の活性化、そして様々な課題も含めあらゆる角度から小野路の未来を見つめて行きたいと言う。

**都** 心ほど近い里山「小野路」。大自然と悠久の歴史を誇り、毎日たくさんの方が街の為に集い、語り、助け合っている。この人たちがいる限り、小野路が更に魅力ある街として輝き、その志はずっと受け継がれて行くに違いない。

**ブルーベリー狩り**  
里山交流館近くの宮本農園で7月20日から、ブルーベリー収穫が出来ます。ご希望の方は交流館にお問い合わせください。1人1800円/kg

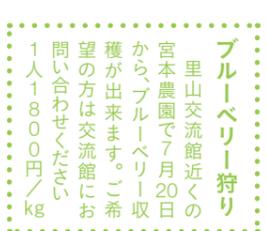
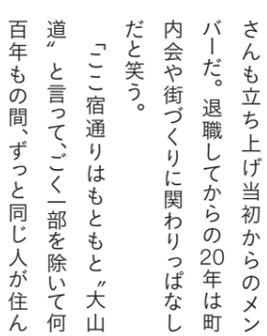


イラスト クロセシゴ <http://kuroseshingo.jp/>

A. 館内はテーブル席と8畳の和室が2つある B. 小野路産の小麦粉で作ったうどん 550円 C.D. 収穫したばかりの野菜の他、手作りクッキーや工芸品も販売されている

